

現地視察結果

平成31年3月7日

平成30年度第6回過疎問題懇談会

山形県川西町 現地視察

山形県川西町 現地視察

1. 視察テーマ 住民自らがつくる持続可能な地域づくり

2. 視察行程

- ・1月21日：吉島小学校における社会学連携の取組の説明、「よしじま四季の市」の取組見学、児童クラブきらり視察、きらりよしじまネットワークの取組説明及び意見交換
- ・1月22日：犬川地区交流センター、フレンドリープラザ及びかわにし森のマルシェの視察
- ・参加委員：宮口座長、青山委員、作野委員、高橋委員

3. 山形県川西町概要

- ・山形県南部に位置。
- ・人口：15,428人、世帯数5,105（平成30年3月末現在）
- ・高齢化率：35.3%
- ・面積：166.60km²



川西町の風景
(写真は川西町のHPより)

4. 川西町立吉島小学校

- ・平成27年度より、学校、家庭、地域の関係機関の代表者で構成される学校運営協議会を設置し、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちを育成している。
- ・地域とPTAが連携し、児童の見守りや授業の実技指導等を実施している。また、地域の各種団体と連携して、田植え体験やスキー教室指導等を行っている。

5. よしじま四季の市

- ・「地元の食材を使用した美味しい料理を皆さんに食べてもらいたい」という思いから、平成17年に、JA女性部の有志が集まり食材加工所（よしじま四季の市）を整備。
- ・吉島地区で収穫した野菜のほか、紅大豆の煮豆や笹巻き、地元食材で作った「地産地消弁当」等を販売している。

6. 児童クラブ きらり

- 廃園となった吉島幼稚園を活用して整備された川西町子育て支援センターに開設されており、放課後の児童の保育や学習指導を実施している。
- 各学年に、リーダーとサブリーダーをそれぞれ一人ずつ配置し、彼らが小学校及び中学校を卒業した後は、彼らの同級生に対して地域の草刈等のボランティアの呼びかけを行っている。



児童クラブきらり
(写真は子育て支援センターのウェブサイトより)

7. きらりよしじまネットワーク

○ 設立経緯

- 行政に頼るばかりではなく、住民の手で地域を再生し30年先を見据えた地域づくりをすることを目的として、平成19年4月に特定非営利活動法人「きらりよしじまネットワーク」を設立。
- 小学校区を単位に、全世帯（現在746世帯）が加入。
- 社会教育振興会や自治会長連絡協議会、防犯協会、地区社会福祉協議会、衛生組織連合会といった地域の関係団体を一元化。

○ 主な取組内容等

- 県、町からの委託金などと、住民からの会費や寄付をもとに運営。
- 住民から寄せられた寄付金は基金運営委員会で管理し、各自治会単位のコミュニティ活動の推進に活用している。
- 体験活動を通して「食」、「命」、「コミュニケーション」を学ぶ「わんぱくキッズスクール」の実施のほか、「放課後児童クラブきらり」や「吉島地区子ども教室」の運営を行っている。
- 高齢者向けのコミュニケーション補完ツールとして、安否確認や買い物サービスなどができるタブレット型の端末を使った実証実験を実施。
- 「地域の人材は地域で育てる」という共通認識の下、住民が楽しんで活動に参加していることが、持続可能な地域づくりにつながっている。

8. 犬川地区交流センター

- 住民自らが主体的にまちづくりを考え行動することをモットーに、地区経営の母体となる「いぬかわ振興協議会」を平成21年4月に設立。協議会は「犬川地区交流センター」を拠点に活動している。
- 国指定史跡等を活用し、スノーモービル体験や雪山散策会、雪祭りを開催することで、都市と農村の交流を推進している。



犬川地区交流センター
(視察時撮影)

9. フレンドリープラザ

- 川西町出身の作家・劇作家である井上ひさし氏から寄贈された蔵書7万冊をもとに開設された「遅筆堂文庫」を核に、劇場と川西町立図書館を併設した複合文化施設として開設。
- 平成21年時点で、22万冊を収蔵している。



遅筆堂文庫
(写真はフレンドリープラザのHPより)

10. かわにし森のマルシェ

- 館内には、川西町の特産品を販売する直売所と、地場の農産物を使った料理を楽しむことができるレストランが併設されている。



かわにし森のマルシェ
(写真はかわにし森のマルシェのHPより)

長野県飯田市・売木村 現地視察

長野県飯田市 現地視察

1. 視察テーマ 長野県飯田市と近隣地域における広域連携と今後の過疎対策のあり方

2. 視察行程

- ・2月6日：飯田市における産業振興と人材育成の拠点施設「エス・バード」の見学、同市の一部過疎地域（上村・南信濃地区）の視察、飯田市関係者（市長、関係所属長等）との懇談
- ・参加委員：宮口座長、太田委員、佐藤委員、沼尾委員

3. 長野県飯田市の概要

- ・長野県南端部。一部過疎地域の上村地区及び南信濃地区は静岡県との県境に位置している。
- ・人口：101,733人、世帯数39,995（平成31年1月末現在）
- ・高齢化率：30.8%（平成28年10月現在）
- ・面積：659km²
- ・飯田市を含む南信州定住自立圏の人口は、現在の約16万人から2040年には12万8千人にまで減少することが予想されている。
- ・飯田市内にリニア中央新幹線の長野県駅が立地する予定であり、今後、人や経済の流れに大きな変化が予想される。

4. 「エス・バード」について

- ・南信州広域連合や（公財）南信州・飯田産業センターなどの関係団体が連携し、航空機産業をはじめとする飯田下伊那地域の産業の高度化等を実現するための施設。航空機システムに関連する人材育成から研究開発、実証実験までを一貫して実施できる国内唯一の拠点として、南信州圏域における産業振興と人材育成の中核となっている。



エス・バード全体図
（画像は（公財）南信州・飯田産業センターウェブサイトより）



エス・バード内観（高速飛行実験機）
（写真は（公財）南信州・飯田産業センターウェブサイトより）

5. 「南信州広域連合」と「南信州定住自立圏」による一体的な地域づくりについて

- 平成21年に、飯田市及び下伊那郡13町村で、全国の定住自立圏構想の第1号となる南信州定住自立圏を形成。ごみ処理や常備消防などを所掌する南信州広域連合と、医療や産業振興のネットワークとなっている南信州定住自立圏を両輪とした一体的な地域づくりに取り組んでいる。
- 広域連合では、かつて設置した施設の更新時期に来ており、改築のための財源捻出が課題になっている。(広域的な施設でありながら、財源を施設所在地の自治体の財源に依存していることへの問題意識)

6. 上村地区及び南信濃地区(遠山郷)の取組について

- 上村地区では、地域の小学校を視察。児童数の減少により存続の危機に瀕したが、少人数ならではの魅力・特色ある学校づくりを打ち出したことにより、平成29年度に小規模特認校の指定を受けた。平成31年度の児童予定者数は14名であり、平成30年度(9名)に比べ、増加する見込みである。
- 南信濃地区では、高齢化率が60%近くに達することへの問題認識から、地区の各種団体に構成される「地域福祉プロジェクト」を立上げ、独居世帯を主対象としたサロンの開催のほか、介護認定を受けなくても利用できる独自の移送サービスの実施に向け、検討を進めている。
- また、地区にI・Uターンした若者2名は、今年度、地区内にシェアハウスを開設。これまで、若い世代を中心に、遠山郷を「居場所」と感じる人々を約300名集めている。



南信州広域連合が設置した障害者支援施設「阿南学園」は、施設の老朽化に伴う改築整備が課題となっている。

(写真は阿南学園ウェブサイトより)



南信濃地区のシェアハウス「COM(M)PASS HOUSE」は、運営する2名の若者が、地区ならではの暮らし方や働き方を自ら提案・実践しつつ、集ってくる人々に対し、「遠山郷の暮らしの素晴らしさ」を伝える場となっている。

(写真はCOM(M)PASS HOUSEのウェブサイトより)

長野県売木村 現地視察

1. 視察テーマ 売木村における移住交流施設の視察等

2. 視察行程

- ・ 2月7日：売木村関係者（村長、副村長等）との懇談、陸上競技場予定地及びインバウンドの誘客拠点施設である「うるぎ国際センター」の視察

3. 長野県売木村概要

長野県最南端に位置し、愛知県豊根村と県境を接する。標高800mという高地ながら水田農村の風景が見られ、また、人口の約3割を移住者が占めている。

- ・ 人口：552人（平成31年1月末現在）
- ・ 高齢化率：約46%
- ・ 面積：43.43km²

4. 売木村への移住者について

- ・ 村では、売木村への移住の背景について、農村の落ち着いた風景や村独自の住みよさ等の生活環境にあると分析。移住者は、村営住宅や改修した空き家に居住するケースが多いが、空き家所有者から提供の承諾が得られないケースも増えており、移住者の居住場所の掘り起こしが課題となっている。

5. 山村留学について

- ・ 地域の子どもの減少に歯止めをかけるため、昭和58年から村内の小中学校で山村留学に取り組んでいる。月に10日程度、地元農家にホームステイするプログラムも生まれ、受け入れた地域住民の生きがいにも寄与している。

6. その他

- ・ 村専属のランナーを任命し、陸上競技の合宿誘致に取り組む「走る村プロジェクト」や、外国人の地域おこし協力隊を活用したインバウンドの誘客促進、道の駅のリニューアルオープンによる産業振興などにも取り組んでいる。



うるぎ国際センター
(視察時撮影)



走る村プロジェクト「うるぎトライアルRUN」
(写真は売木村ウェブサイトより)